

顕微鏡検査ハンドブック

臨床に役立つ形態学

菅野 治重, 相原 雅典, 伊瀬 恵子, 伊藤 仁, 手島 伸一, 矢富 裕 編

臨床医学に役立つ顕微鏡検査のすべてがここにある！

東北大加齢医学研究所教授・抗感染症薬開発寄附研究部門

渡 辺 彰

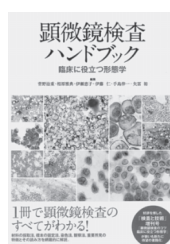
臨床医学に大きく役立つ顕微鏡検査のすべてがここにある！これが私の第一印象である。本書は微生物検査だけでなく、細胞診、血液像、尿沈渣、病理などの顕微鏡検査法があまねく、しかも互いに連携を保って網羅・解説されており、これが本書の最大の特色である。すなわち、横断的な編集であり、しかも各分野が有機的に連携されていて、統一した視点から編集されている。今日の臨床医学に最も欠けている部分は本書によって埋められるものと考ええる。

これまでは、そうではなかった！病院や検査センターにおける顕微鏡検査は、各分野に分かれて行われており、互いの連絡や接触は希薄であった。臨床検査法の教科書も同様であった。すなわち、縦割りの検査が行われており、教科書も縦割りだったのである。皆がたこ壺にこもっているので、互いの様子は互いによくわからない。たこつばから臨床へ有用な情報を発信することはできるだろうか？できるわけはなく、これが今日の臨床検査・臨床医学の大きな欠陥となっていたが、本書はその欠陥を埋める良いハンドブックとなっている。編者の先生方の力量に負うところが極めて大きい、わが国の微生物検査に携わる医師と臨床検査技師の中で、本書の編集代表である菅野治重先生を知らない人はいない。

本書は、菅野先生をはじめとする編者の方々お

よび執筆者の方々が他の分野にも広く名を知られるようになる第一歩の一冊でもあると思われる。それは本書が、微生物検査の領域だけではなく、広く他の臨床検査、のみならず、広く臨床医学全体の中で顕微鏡検査によって得られる情報を最大限に生かすためには、どのような知識と技術の習得が必要なのかを解説した本だからである。微生物検査以外の分野に携わる方々にも薦めたい一冊であり、もちろん、微生物検査に携わる方々にも薦めたい一冊である。

本書を読むことによって自分の目が大きく開かれることは間違いないが、現に顕微鏡検査に携わっている医療者のみならず、これからこの分野に進む学生らなどにとっても、たこつば的な知識の枠を超えて広い視野を与えてくれる必読の一冊であり、臨床検査・臨床医学における自分の存在価値を高めてくれることは間違いない！



●B5 頁416 2012年
定価 6,825 円
(本体 6,500 円＋税 5%)
[ISBN978-4-260-01554-7]
医学書院刊(☎ 03-3817-5657)